

世田谷区基本構想審議会第3部会（第2回） 議事要旨

【日 時】 平成24年4月25日（水） 午後6時～午後8時

【場 所】 世田谷区役所第3庁舎3階 ブライトホール

【出席者】

■委員 大橋謙策（部会長）、森田明美（副部会長）、大森猛、宮田春美、
上野章子、宮本恭子、風間ゆたか、田中優子、
小林正美（第2部会）、永井多恵子（第2部会） 以上10名

■区 金澤生活文化部長、藤野保健福祉部長、板谷地域福祉部長、萩原子ども部長、
西田世田谷保健所長、佐藤教育委員会事務局次長、古閑教育委員会事務局部
長、小田桐政策企画課長、澤谷財政課長、田中政策研究担当課長、笹部政策
経営部副参事、吉田政策経営部副参事

【議事概要】

1 主な意見

- ・健康寿命の延長には区民の自覚も重要であり、教育も必要である。
- ・長寿命化が進んだ人生100歳時代では、60歳はまだ半分である。ただ、定年後、その先に向けてのライフプランを持てていない人が多い。
- ・全世代で見れば、死因に占める自殺の割合は大きくないが、20代の死因としては自殺が一番多く、対策が必要である。
- ・外国人、働けない・働かないことによる貧困、司法福祉や更生保護といった少数者への施策についても、男女共同参画と同じように暮らしやすさというまちづくり全体の文脈の中で議論しなくてはならない。
- ・市民性の養成は21世紀社会の大きな問題である。区民が様々な課題を抱える人どう暮らしてゆくのかという視点がなくては、ノーマライゼーションや地域での共生等につき十分に議論できない。外国人や貧困者等と地域の関係は喫緊の課題でありながらも、20年後に向け社会的に仕組みを作ってゆく必要のある課題でもある。
- ・区の既存の取り組みでは、健康な高齢者への施策が抜けている。定年を迎えた方が、DVやお酒に走らないようにするための仕組みを考える必要がある。
- ・社会の中で大人になるまでに親として成長する機会がないように感じる。そのため、子どもが生まれてはじめて親として学ぶ。そのような状況で、区が保育施設などを整備し、共働きが増えることで、逆に行政に子育てを依存することになり、問題が起こる面もあるのではないか。
- ・昔は地域や家庭の中で子どもが接する機会があったが、今はないため、教育の中で組織的にやらざるを得ない。世田谷っ子を育てるという観点からも地域と連携した教育システムが必要である。
- ・お年寄りから昔遊びを教わるなど地域の方と関わりを持つ中で、子供も自然と世田谷区の良さを知り、地域性も身につけてゆく。公立の児童は地域とつながる機会を持ちやすいが、私立の児童は別途対応を考える必要がある。
- ・20年後を検討する上で、今の学校教育を中心としたシステムを前提にコミュニティスクールなど既存の取り組みを拡充すれば問題が解決するのか、それとも、福祉教育や

社会教育なども含めた新たな教育システムが必要なのか、といった根本からの議論が必要である。

- ・地域の多様性を捉えた取り組みを推進する上で、民生委員の担当地域（556 区分）という基準は参考となるだろう。
- ・民生委員や非行少年の保護司の担い手が不足している。このような状況で抽象的に区民による地域づくりと言われても担い手がいるのかは疑問である。

2 部会の運営について

- ・20 年後の構想の検討にあたり、課題解決型である必要はない。区の既存の取り組みや課題認識にとらわれず、ビジョンを議論することが重要である。
- ・白紙からのビジョンの検討は難しいため、現行の施策や課題認識は、大枠でも把握しておく必要がある。
- ・基本構想と基本計画の違いを確認する必要がある。個々の課題を挙げていったらきりがないので、大局的に構想を考えるべき。その構想の実現に向け、一つひとつ必要な施策を考えたほうがよい。例えば、「首都直下型地震が来ても死なない街をつくる。助かる、助けてもらえる街、復興が早い街」という目標を掲げ、その中で高齢者や障害者や外国人などに必要な支援や役割、公園や道路の整備も含めたまちづくりなど、必要なことを考えるとといった流れで考えるべきではないか。
- ・個別の課題を確認するよりも、様々なテーマの間の優先順位を示すような目指すべき将来像について話し合う必要がある。
- ・全体の方向性については、全体会で話し合うべきである。その議論が煮詰まっていないと、部会での議論は難しい。
- ・全体会は人数が多く、議論が難しい面もあり、他の分野にまたがる課題や問題意識については、第3部会から積極的に他の部会に情報発信をおこなってゆきたい。
- ・分野横断的な課題を検討する上では、ビジョンが必要である。そのため、「全体的な課題と既存の枠組みにとらわれない検討」というテーマで次回論議を進める。